

《特選》

わたしの誇り

城東小学校 六年

江口 果凜 さん

先日、私はときめきという総合の時間に、彦根城のボランティアガイドを行いました。私は彦根城の歴史や文化をとて誇りに思っています。なぜなら世界に一つの、彦根城だけの良さがあるからです。私はそのことを観光客の方などに伝えることができ、嬉しかったです。また、観光客の方たちの驚いた顔を見て、やっぱり彦根っていいな、と思いました。そこでふと、知り合いから聞いた話を思い出しました。

牛の血を飲んだり、猿や犬、猫などを食べる人たちがいるという話だったと思います

す。私はそれを聞いて気持ちが悪く感じました。しかし、今考えてみると、牛の血を飲むことも、猿や犬や猫を食べることもすべて文化なのだと思います。昔から受け継がれてきた、民族の誇りである文化。私はそれを勝手に気持ちが悪く思ってしまったことが恥ずかしいです。私は自分の今までの生活や出来事だけから常識や普通というものを決めていたのだ、と気がつきました。

私はくじらの竜田あげが大好きなのですが、「国や地域によってはくじらを食べるのはおかしいと思う人がいる」と母から聞いたことがあります。私はシヨックを受けました。くじらを食べることは普通だと信じていたのに文化によってこんなにも考え方が変わるのだと驚きました。

私は彦根城を誇りに思い、

彦根の文化を素晴らしいと感じています。だから、もし馬鹿にされたら怒ると思います。どこのどのような文化も、大切にしている人や誇りに思っている人々がいて、決して馬鹿にすることではないのです。理解しようとするべきものなのです。認めようと努力するべきことなのです。戦争や紛争、もめごとなどは、相手のことを認めたくない思いや、文化を理解できない思いから始まるものが多いのではないかと思います。私も頭では分かっているが、つい異質な文化を変なものとしか見ていなくなってしまうことになりました。でも、変だ、気持ち悪い、と思って行動する前に、立ち止まってもう一度考えるべきだと思います。絶対に理解できない、おかしいとばかり考えていては、だれとも分かり合えません。人は分かり合い、幸せ

や嬉しさを感じながら協力することで、生きがいや喜びを見出すことができるのではないのでしょうか。それは「平和のとりで」を築くことにつながります。みんなの笑顔のために、これからの時代は、一つひとつの文化や考えを尊重し、分かり合っていくべきだと思います。そのために、様々な文化や考えと関わっていききたいです。

《選評》

国や地域によって、それぞれ固有の文化があります。には信じられない慣習でも、その国や民族の文化、誇りだとして、考えを深めています。くじら肉を食することに對する批判にシヨックを受けながらも、それぞれの文化を大切にしていきたいという気持ちで伝わってきます。様々な人権問題があることを改めて感じさせる優れた作文です。